



～本好きの子どもを本好きの大人にするお手伝い～ 県南ブックコミュニティ 交流学習会 6月27日(日)

「本好きの子どもを本好きの大人にするお手伝いになるような読み聞かせ活動をしていこう」という思いを込めて、横手市を拠点に活動する「県南ブックコミュニティ」主催の交流学習会が6月27日に横手市かまくら館で行われました。

前半の全体学習会では3名の方が選んだ本を用いて演示を行い、参加者全員で留意点などを共有しました。後半は3つのグループに分かれて読み聞かせのスキルアップと選書、お話会の企画と改善点について意見交換が行われました。研修の中で本の持ち方、見せ方、声の強弱等、具体的な読み聞かせのポイントがたくさん挙げられていました。また、お話会の企画運営についてはメインの本を決める参加型絵本の活用等、心に響くプログラム作りのために熱心な協議が行われていました。

社会が変化する中でも子どもの想像力や思いやりの心、豊かな感性を育むために「読書」が果たす役割は大きいと感じます。各学校や地域で活動されている読み聞かせボランティアの皆さんの活躍に引き続き注目していきたいと思います。



【グループ別研修の様子】

おはなしボランティア「そよかぜ」

大人のおはなし会

日時・7月7日(水) 10:00～11:00+

「大人のおはなし会」というタイトルに惹かれ、7月7日に大綱交流館で開催された、おはなしボランティア「そよかぜ」主催の会に参加させていただきました。オカリナやスライドを使ったり、懐かしい歌を歌ったりと、楽しい企画がたくさんありました。運営する側も参加する側も笑顔あふれる素晴らしい時間でした。子どもを対象とした読み聞かせに加えて、地域を明るく元気にするこうした取組に今後も注目していきたいと思います。



【広がる絵本を使ったお話】



【スライドを使ったお話】

アドバイザーコラム：学校・家庭・地域の連携・協働 14

理想の放課後児童クラブ!?

社会教育アドバイザー 小笠原 重夫

南教育事務所では先月、県南地区の放課後児童クラブ(学童保育)の支援員さんや放課後子ども教室の推進員さんなどを対象に、「放課後支援者研修会」を開催しました。それに先立って、私たちはいくつかの放課後児童クラブを視察させていただきました。

その中で、「これは、もしかして理想の児童クラブ!?!」と思えるような放課後児童クラブを1つ見付けました。それは、東成瀬村のなるせ児童館で行われている放課後児童クラブです。

以下に、その素晴らしさを箇条書きにします。

- ①新型コロナウイルス対策が十分だった。テーブルとテーブルの間隔を広くとり、テーブルの真ん中には仕切りが取り付けられ、対面する形にならないよう一方を向いて勉強していた。換気も十分。
- ②なるせ児童館は、図書館が併設されている複合施設で、子どもたちが本を読みたくなればすぐ

読むことができる環境下にあった。

- ③東成瀬小学校とドア1枚隔てて隣接していて、何かあればお互いにすぐ連絡・相談できる環境が構築されていた。
- ④特別な支援を要するお子さんを個別にサポートしている学校生活支援員さんが、放課後にはなるせ児童館に来て、引き続きその子をサポートする体制が取られていた。
- ⑤宿題や一人勉強が終わった子どもたちは、支援員さんたちと一緒に「折り紙教室」を行っていた。折り紙教室は、文科省の「放課後子ども教室事業」の一環として行われているものだが、厚労省管轄の放課後児童クラブと文科省管轄の放課後子ども教室が、一体的に推進されていた。ちなみに、この児童クラブの支援員さんたちが子どもたちを迎え入れる時の言葉は、「いらっしゃい」ではなく「お帰りなさい」でした。